



ウメモト インフォメーション



2021年8月11日

担当 坂田

(単位:トン、%, 百万円)

項目 品目	生産量				出荷量				出荷額				在庫量		
	令和2年 5月	5月	前月 比	前年 比	令和2年 5月	5月	前月 比	前年 比	令和2年 5月	5月	前月 比	前年 比	5月	前月 比	前年 比
印刷インキ合計	18,636	20,225	78.7	108.5	20,975	23,205	80.0	110.6	16,534	19,239	81.8	116.4	13,867	99.4	89.9
平版インキ	3,499	4,520	70.8	129.2	3,861	4,994	70.4	129.3	2,522	3,376	72.4	133.9	4,526	100.7	78.3
樹脂凸版インキ	1,415	1,480	80.9	104.6	1,419	1,559	79.6	109.9	1,071	1,173	79.2	109.5	1,200	100.4	91.7
金属印刷インキ	783	754	88.6	96.3	848	879	76.8	103.7	774	829	76.7	107.1	442	114.5	84.7
クラビアインキ	8,882	8,941	80.9	100.7	10,844	11,313	83.1	104.3	5,787	6,154	83.2	106.3	3,738	95.2	98.9
その他のインキ	2,453	2,752	84.3	112.2	2,318	2,937	89.6	126.7	5,526	6,921	87.6	125.2	2,801	99.5	103.2
新聞インキ	1,604	1,718	73.8	107.1	1,685	1,523	79.2	90.4	853	785	78.5	92.0	1,162	101.8	88.0
印刷インキ用ワニス	4,520	5,378	81.9	118.7	1,485	1,748	78.4	117.7	520	582	76.9	111.8	2,106	103.1	87.2

(化学工業統計月報より)

印刷インキ需給実績

令和3年5月



ウメモト インフォメーション



2021年8月11日

担当 坂田

令和3年5月度 ABC部数

新聞社名	販売部数	新聞社名	販売部数	新聞社名	販売部数	新聞社名	販売部数
全読売(合計)	7,111,343	全日経(合計)	1,860,086	上毛新聞	275,179	大阪日日新聞	5,325
”(東京)	4,294,905	”(東京)	1,107,854	東京新聞	405,175	神戸新聞	417,765
”(大阪)	1,876,808	”(大阪)	450,439	朝日小学生新聞	70,869	日本海新聞	145,720
”(西部)	555,030	”(西部)	126,502	朝日中高生新聞	43,850	山陰中央新報	173,797
”(北海道)	166,707	”(名古屋)	141,073	読売KODOMO新聞	209,134	山陽新聞	307,664
”(北陸)	79,057	”(北海道)	34,218	読売中高生新聞	95,920	中国新聞	537,660
”(中部)	138,836	全産経(合計)	1,191,632	ニッポン農業	68,360	中国新聞SELECT	25,038
全朝日(合計)	4,714,358	”(東京)	491,165	日本農	300,803	徳島新聞	186,672
”(東京)	2,713,937	”(大阪)	700,467	神奈川新聞	147,453	四国新聞	167,111
”(大阪)	1,247,590	北海道新聞	876,743	新潟日報	389,053	愛媛新聞	188,974
”(西部)	399,625	北海道新報	91,140	北日本新聞	209,086	高知新聞	148,859
”(名古屋)	258,755	東奥日報	195,998	北陸中日新聞	82,456	西日本新聞	473,016
”(北海道)	94,451	岩手日報	177,217	北国新聞	321,177	佐賀新聞	121,403
全毎日(合計)	2,003,834	河北新報	389,094	日刊民福井	30,573	長崎新聞	165,257
”(東京)	778,561	山形新聞	205,323	福井新聞	174,557	熊本日日新聞	247,719
”(大阪)	817,667	山形新聞	184,718	山梨日日新聞	177,345	大分合同新聞	170,332
”(西部)	322,389	福岡民報	224,530	信濃毎日新聞	422,581	宮崎日日新聞	179,216
”(中部)	64,614	福島民報	159,761	岐阜新聞	135,135	南日本新聞	253,315
”(北海道)	20,603	茨城新聞	122,774	静岡新聞	550,705	The Japan News	11,442
		下野新聞	280,220	中京新聞	1,991,421	道新スポーツ	31,451
				京都新聞	355,277		



NY原油、一時65ドル台 2カ月半ぶり安値 中国輸入量減少で

9日のニューヨーク市場でWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物が急落し、期近物が前週末比3.13ドル（4.6%）安の1バレル65.15ドルと5月24日以来、約2カ月半ぶりの安値を付ける場面があった。アジアで新型コロナウイルスの感染拡大が続いているうえ、中国の7月の原油輸入量が大幅に減少したため、需要の先行き懸念が強まった。

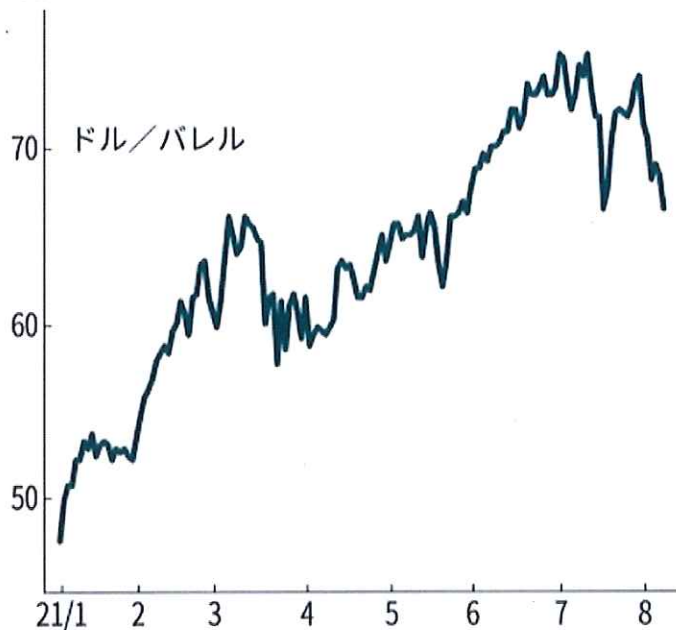
WTIの期近物の9日終値は1.80ドル（2.6%）安の1バレル66.48ドルだった。中国では新型コロナのインド型（デルタ型）の感染が拡大。当局は省をまたぐ移動の自粛を呼びかけ、北京への移動制限も強めているため、エネルギー需要が抑制されるとの警戒感が高まっている。

7日に公表された中国の7月の原油輸入量は4124万トンと前年同月より2割減った。前年は原油価格の低迷を背景に積極的に輸入を増やした分、減少幅が大きくなった面もある。マーケットエッジの小菅努代表は「中国の経済成長の減速感が原油需要の伸びを抑制するとの見方が相場に織り込まれている」と指摘する。

WTIは安値を付けた後は下げ渋り、日本時間10日の時間外取引では68ドル台まで上昇する場面もあった。石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなどの非加盟国で構成する「OPECプラス」は7月中旬、協調減産の枠組みを2022年末まで継続することで合意。中国の需要への懸念が続いた場合、OPECプラスが原油価格を維持するために協調減産の縮小ペースを緩めるとの期待が根強く、相場を支えている。

10日の東京商品取引所では前日のニューヨーク市場の流れを引き継ぎ、原油先物が売られる展開となった。取引の中心である期先物の清算値は前週末比950円（2.1%）安の1キロリットル4万5010円となった。

新型コロナ感染拡大で足元は下落基調に



香川・坂出港に「RORO船」初就航、物流コスト減に

四国有数の貨物港として知られる坂出港（香川県坂出市）で「RORO船」と呼ばれる貨物船の定期寄港が始まった。貨物を積んだトラックやトレーラーがそのまま乗り込んで荷台ごと輸送する船で、貨物の迅速な積載が可能。香川県の工業製品や農産物などの海上輸送網を強化でき、地球温暖化防止やトラック運転手の働き方改革の対応にもつながる。

7日にRORO船が接岸したのは、坂出市街地の北部に広がる坂出港の一角にある林田岸壁。商船三井フェリーのRORO船「ぶぜん」が接岸し、貨物の積み込み作業を行った。

トレーラーが船尾から乗り込んでいく。しばらくすると、車両のヘッド部分だけが下り、岸壁で待機していた別のトレーラーが代わって船に入っていく。

RORO船はロールオン・ロールオフの略で、トラックなどが自走して積み込める。見ていてあつという間の積み込みで、切れ目のない作業が行われており、迅速と言われるRORO船の特徴が分かる。

毎週土曜日に福岡県の苅田港から岡山県の宇野港を経て坂出港に入港し、夕刻に出港して翌日午後3時半に東京港に着く計画。RORO船は四国では松山港など愛媛県で運航されているが、香川県は初めてとなる。

商船三井フェリーによると、RORO船利用で運転手の運転時間は地上を行く場合に比べて9割減り、二酸化炭素の排出量も半分になるといふ。働き方改革の一環で自動車運転業務も2024年度から時間外労働の上限規制が適用される中で、新たな海上輸送ルートができたことの意味は地元産業界にとって大きい。

商船三井フェリーは運航スケジュールについて「香川県のミカンやレタスなど農産物が日曜日に東京に届き、月曜朝に首都圏の市場で出せるようになる」と利点を強調する。鮮度の高い農産物で県内農業の競争力強化に役立ちそうだ。

香川県内のユーザーの期待も大きく、タダノはさっそく利用した。関東向けにクレーン車や高所作業車など5、6台の輸送に利用したいと考えている。7日の便は台風による荒天の影響で高所作業車1台を積み込んだ。同社はこれまで徳島からフェリーで輸送していたが、坂出港を利用すれば製品の自走距離を大幅に短くできる。徳島を使うのとは比べ、高松工場（高松市）からは60キロメートル程度、香西工場（同市）からは70キロメートル以上短縮できるという。走行距離は短いほうがよく、また事故リスク軽減にもなる。

全体として輸送コスト削減に役立つほか、二酸化炭素の排出量削減につながることも重視する。タダノは「土曜日は基本的に継続利用したい。九州への下りの便もあれば利用したい」と話す。

坂出港は周辺道路の利便性も改善される見通しだ。最も近い瀬戸中央自動車道・坂出北インターチェンジは24年度にフルインター化される予定で、四国各方面から同インターを通じて同港を利用できるようになる。坂出港は貨物取扱量が低迷しているが、最近持ち直しており、RORO船就航で利用拡大につながりそうだ。

東海力の21年12月期、純利益12倍 タイヤ部材伸びる

東海カーボンは10日、2021年12月期の連結純利益が前期比12倍の120億円になる見通しと発表した。従来予想を31億円上方修正した。自動車の世界的な需要回復で、タイヤ部材を手掛ける主力事業が伸びるほか、半導体製造装置部材の出荷も堅調に推移する。

21年12月期の売上高は前期比24%増の2509億円、営業利益は前期比3倍の236億円になる見通し。それぞれ従来予想から230億円、55億円上方修正した。タイヤの補強材に使うカーボンブラックが伸びることに加え、半導体製造装置部材のファインカーボン事業も収益を支えるとみる。

同日発表した21年1～6月期の純利益は前年同期比2.6倍の57億円だった。中国の自動車生産の回復やタイヤの需要回復で、カーボンブラック事業の海外を含む全生産拠点で販売量が前年同期を上回った。工場の稼働率の引き上げによる原価率の改善なども増益に寄与した。

売上高は25%増の1173億円、営業利益は88%増の109億円。カーボンブラック事業に加え、アルミ精錬部材を生産・販売する精錬ライニング事業も自動車生産の持ち直しなどで回復した。同事業の売上高は218億円と7割増えた。

一方、製鉄の電炉向けの部材である黒鉛電極事業の売上高は14%減の179億円、営業利益は92%減の1億2300万円にとどまった。20年10月に21年1～6月納入分の値上げを打ち出したが、競合の低価格販売などの影響で価格が上がらず、アジア向けの出荷が振るわなかった。

は10日、2021年12月期の連結純利益が前期比12倍の120億円になる見通しと発表した。従来予想を31億円上方修正した。自動車の世界的な需要回復で、タイヤ部材を手掛ける主力事業が伸びるほか、半導体製造装置部材の出荷も堅調に推移する。

21年12月期の売上高は前期比24%増の2509億円、営業利益は前期比3倍の236億円になる見通し。それぞれ従来予想から230億円、55億円上方修正した。タイヤの補強材に使うカーボンブラックが伸びることに加え、半導体製造装置部材のファインカーボン事業も収益を支えるとみる。

同日発表した21年1～6月期の純利益は前年同期比2.6倍の57億円だった。中国の自動車生産の回復やタイヤの需要回復で、カーボンブラック事業の海外を含む全生産拠点で販売量が前年同期を上回った。工場の稼働率の引き上げによる原価率の改善なども増益に寄与した。

売上高は25%増の1173億円、営業利益は88%増の109億円。カーボンブラック事業に加え、アルミ精錬部材を生産・販売する精錬ライニング事業も自動車生産の持ち直しなどで回復した。同事業の売上高は218億円と7割増えた。

一方、製鉄の電炉向けの部材である黒鉛電極事業の売上高は14%減の179億円、営業利益は92%減の1億2300万円にとどまった。20年10月に21年1～6月納入分の値上げを打ち出したが、競合の低価格販売などの影響で価格が上がらず、アジア向けの出荷が振るわなかった。